

青年のひとりごと

先日、お客さまから私への「ご意見」があったとのことで、休日に、職場から「事情聴取」のための電話が何度もかかってきました。その「ご意見」の中身は、私が乗務する特急列車が遅延して、博多から乗り換える予定の新幹線に間に合わなかったというもの。よくありがちな苦情ですが、事情聴取においては、「お詫びの放送はきちんとしたのか?」「車内ではどのような対応をしたのか?」といったように、まるで私個人の粗探しをしてくるかのような印象でした。

当たり前ですが、今回の苦情の原因は、イベント開催に伴うお客さま混雑の影響により、列車が遅延するという単なる物理的な問題によるものであって、解決策としては、イベント期間中の列車遅延そのものをなくすこと以外にありません。これは、どう考えても会社として取り組むべき問題であり、乗務員個人の責任に持っていくのは無理というか横暴です。

しかし、このときの私自身、「ひょっとして自分も悪いのでは」と見当違いの罪悪感を覚えたのもまた事実です。

ところで、会社は、常日頃から、「誠実」な社員像を私たちに求めてきますが、カルト宗教の洗脳においても、「誠実」な人間は真っ先に狙われます。彼らは、「誠実」であるがゆえに、他人と揉めた際、「自分に非はないか」という自己点検を怠らないため、論点さえすり替えれば、「やっぱり私が悪い」と思わせることができ、支配するのが簡単です。こうして、「不誠実」な人間が圧倒的勝利をおさめる状況が生まれてしまうわけです。

今回もそうですが、果たして、会社の方は、普段から社員に対して「誠実」と言えるのでしょうか。自腹を切るのが当たり前の「増収」、半強制的な「自主活動」・・・「自分」を守るためには、周囲を疑う姿勢も必要です。

○当面する行動

○12月19日(木) 13:00～交通対策会議・ダイヤ改正要求のための職場集会

○12月20日(金) 13:30～九州朝高生修学支援の国家賠償請求控訴審の傍聴

○12月28日(土) 11:00～地区本部事務所土曜除